



工学部広報



北桜祭特集

第60回北桜祭

「NEXT STAGE」をテーマに開催された
「第60回北桜祭」の様子を紹介します。 …P1-3

●北桜祭はボクらの甲子園 …P3

課外活動特集

- 課外活動応援団 …P4
- 体育会活動リポート …P5-6
- スキルアップリポート …P7-8

トピックス

- クローズアップ工学部 …P9-10

就職特集

- 工学部生の就活 …P11-12
- 工学部の就職支援 …P13-14
- 社会で活躍する卒業生 …P15-16

工学研究所NEWS

- 第11回 産・学・官連携フォーラム …P17
- 科学研究費補助金交付者一覧 …P17

ZOOM UP!

- ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム
「次世代へのメッセージ」 …P18
- 工学部だより …P19

第60回 北桜祭

Theme **NEXT STAGE**

～今までの伝統を引き継ぎながら、
新しい北桜祭を創りあげよう～



今年も北桜祭の季節がやってきた——！！

10月16日(土)・17日(日)の2日間、日本大学工学部恒例の「第60回 北桜祭」を開催しました。

63年の歴史を誇る工学部にあって、60回目を迎える北桜祭は、まさに工学部生の青春の歴史そのもの。今までの伝統を引き継ぎながら、心機一転、新しい北桜祭を創りあげようという思いから、今回は「NEXT STAGE」をテーマに掲げました。豊かな自然に包まれた広大なキャンパスをステージに、新たな時代の扉を開く“NEW北桜祭”的様子を紹介します。

エコ風船にやさしさを詰め込んで

「NEXT STAGE」を象徴するかのような北桜祭のメインステージ。去年までは移動可能なトラックステージを使用していましたが、今年は校友会から寄贈された本格的なイベントステージを設けました。

開祭式では出村克宣工学部長が壇上に立ち、この日を待ち侘びた学生たちに熱いメッセージを贈りました。吹奏楽部の演奏による校歌齊唱が終わると、「サン、ニッ、イチッ」のかけ声とともに、土にかかる環境に優しい色とりどりのエコ風船が大空へ。ロハスな工学部発の地球にやさしい演出に大きな歓声が上がっていました。

メインステージでは、地域の皆さんに大人気の餅つきや、豪華なプレゼントがもらえるbingo大会、YOSAKOIそらん踊りin日大工学部など、楽しさいっぱいの企画が目白押しでした。

文化系サークルの個性が満載！

1号館や70号館、ハットNE（50周年記念館）などでは、文化系サークルによる“競演”が人気を集めています。ロボットやオートバイ、自作スピーカー、木工作品などの展示コーナーには個性が満載。ソフトアーチやダンスショー、将棋の対局などといった体験コーナーも多くの人で賑わっていました。

会場で地域の方に声をかけてみたところ、「北桜祭は毎年楽しめます。いつも学生から元気をもらっています！」という答えが返ってきました。子供からお年寄りまで、地域の皆さんも一緒になって楽しめること、それこそが北桜祭の大きな魅力につながっているようです。

「60回」を新たなスタートラインに

2日間とも秋晴れに恵まれて、延べ約15,000人が集まった今年の北桜祭。キャンバス内にある目印を見つけてスタンプを3つ集めると、総合案内所で景品がもらえるスタンプラリーや、北桜祭当日のイベントや参加団体のCMを配信するストリーミング放送など、独自の工夫を凝らした企画も好評でした。

“見る・食べる・楽しむ”と魅力が3拍子揃った模擬店も大人気。学生と地域の皆さんが笑顔で触れ合う姿が印象的でした。

人間でいうと還暦を迎えた北桜祭。「60回」という節目の年を新たなスタートラインに、これからも青春の1ページを積み重ねていくことでしょう。

北桜祭はボクらの甲子園

チームワークの結晶です！

建築研究会

10円硬貨の絵柄で有名な平等院鳳凰堂や日本最古の木造洋風建築であるグラバー邸など、この日のために、みんなで力を合わせて作ったという作品を展示していたのは建築研究会です。実際の建物を見に行ったり、歴史を考証したりしながら、それぞれの特徴をリアルに再現した模型は、どれも力作揃い。それぞれの作品からは「建築が大好きで仕方がない」という熱い思いが伝わってきます。

「作品の準備では、夜遅くまで頑張りぬきました」と会長の大佐古和明さんが語るように、メンバーの表情には「やり遂げた！」という充実感がみなぎっていました。「展示会やワークショップを通じて、地域の皆さんと触れ合う機会が多くなっています。建築の魅力をもっと多くの人に知ってほしいですね」。



魅惑のステージに拍手喝采！

モダンジャズ研究会 (MJA)

ジャズってかっこいい——！まさにハートを握さぶられるような魅惑のステージを披露していたのがモダンジャズ研究会(MJA)です。会長の磯飛一真さんの話によると、メンバーの多くは大学に入って初めて楽器を手にしたそうですが、スポットライトを浴びながらステージに立つ姿はプロも頗負け。

「各地の音楽イベントに呼ばれたり、結婚式の会場で演奏したり、学外で活動する機会が増えています。郡山だけでなく、福島や会津若松、宇都宮、東京など、ずいぶんいろいろなところへ行きました。学科や学年を超えて、音楽で結ばれた仲間の演奏をとことん楽しんでもらえたら嬉しいです」。



課外活動応援団

課外での学生の活動ぶりをクローズアップします。

「ETロボコン^{*}2010北関東大会」で総合優勝！念願のチャンピオンシップ大会へ

情報工学科情報通信システム研究室「よねんてい～」

10月2日(土)に新潟大学駅南キャンパスで開催された「ETロボコン2010北関東大会」で、情報工学科情報通信システム研究室「よねんてい～」のチームが堂々の総合優勝を果たし、チャンピオンシップ大会(12/1に開催)の出場権を得ました。ETロボコンは「モデル部門」と「競技部門」の結果を総合して最終的な順位が決まりますが、「よねんてい～」は2部門ともトップという完全制覇を飾り遂げました。

チームリーダーの米谷さんのニックネームと学部4年生を引っかけて、先輩が命名してくれたという「よねんてい～」。昨年度で統いて2度目の出場となった米谷さんは、「前回、モデル部門ではエクセレントモデル賞を受賞しましたが、惜しいところでチャンピオンシップ大会進出を逃してしまって…。今年はリベンジのつもりで参加しました。長い道のりでしたけど、努力が報われたので最高の気分です」と語ってくれました。

詳しくは工学部のホームページの「工学部広報PLUS」をご覧ください。
※ETロボコン(ETソフトウェアデザインロボットコンテスト)とは、同一のハードウェアで作られたロボットに分析・設計したソフトウェアを搭載し、ソフトウェア設計モデルと並行ダイムの総合評価を競うコンテスト。各地区大会から選抜されたチームでチャンピオンシップ大会を行います。



第14回JIA東北建築学生賞で奨励賞を受賞！

建築学科3年 佐久間 晃惟さん

10月15日(金)、社団法人日本建築家協会(JIA)東北支部が主催する「第14回JIA東北建築学生賞」が、仙台市青葉区の「せんだいメディアテーク」で行われ、建築学科3年の佐久間晃惟さんが奨励賞(東北専門新聞連盟賞)を受賞しました。

コンクールには東北地方の大学や高専、専門学校から選ばれた37作品が参加し、工学部からも3作品をエントリーしました。作品はどれも力作揃いとあって、投票による審査ではたびたび票が割れ、「どの作品も素晴らしい」「優劣は付けられない」といった声があがっていました。

接戦の末、奨励賞に輝いた佐久間さんは、「まさか自分の作品が選ばれるとは思いませんでした。いろいろとサポートしてくれた先生や友だち、先輩方に感謝の気持ちでいっぱいです。大会当日も何人か応援にきてくれたので、とても心強かったです。できれば来年度も参加したいですね」と声を弾ませていました。

詳しくは工学部のホームページの「工学部広報PLUS」をご覧ください。



体育会活動リポート

体育会の活動ぶりをいくつかピックアップしました。

剣道部

東北大会で3位に入り、14年ぶりに全日本学生剣道優勝大会へ出場！

●剣道部 木下 大輔さん(土木工学科4年)

私たち剣道部は、9月12日(日)に宮城県で行われた東北大会で3位に入り、14年ぶりに全日本学生剣道優勝大会へ出場しました。この大会は、大学唯一の団体戦の全国大会で、10月31日(日)に大阪府で行われ、精一杯健闘しました。

今年はずば抜けた選手はいませんでしたが、お互いにカバーし合いながら全員一丸となって戦えたことが、東北大会で3位という好成績につながったのだと思います。団体戦は個人戦と違って、自分が負けたら終りではなく、チーム全体でカバーして助け合うことができます。まさにチームワークの勝利でした。

研究などで剣道に費やせる時間が限られていたので、より短い時間でいかに効率よく強くなれるかが大きな課題でした。心からの練習は夕方の6時過ぎから1時間半程度。全員が揃わないこともあります。

剣道部の良いところは、先輩・後輩の分け隔てのないところです。OBの方には、いつも稽古をつけてもらったりしていましたので、恩返しができる本当に良かったです。多くの人に支えられたおかげで今の自分たちがいると思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。

●剣道部の主な成績

平成22年度 日本大学体育大会成績

準優勝

●優秀選手
木下 大輔(土木4年)

2(代)-2 経済学部
4-1 生物資源科学部
2-3 國際関係学部

第3位

3-2 青森大
2-2 仙台大
(本数勝ち)
2-3 富士大

平成22年度 日本大学体育大会総合順位・その他の成績優秀団体

工学部総合順位 男子6位

女子11位

バドミントン部

男子優勝

3-1 経済学部
3-0 法学部
3-0 文理学部

柔道部

第3位

③-3 法学部
2-4 生産工学部

水泳部

猪苗代湖を泳いで横断しました！

●水泳部 林 修平さん(建築学科3年)

8月29日(日)、猪苗代湖の水質の良さをアピールするため、猪苗代湖水環境協議会の主催で開催された「猪苗代湖横断泳大会」では、7.6キロの横断コースを泳ぎました。チームは3人1組。1人ずつ交代で泳ぎ、1人がボートで漕いで、もう1人が指示を出しました。水深は91メートルで、水の中は真っ暗でした。波が強くて、水が重たく感じられましたが、きれいな水なので水を飲んでも大丈夫でした。選手の中には「魚が見えた」という人もいました。

泳ぎは慣れていても、ボートを漕ぐのは大変でした。高い波が押し寄せてきて、ボートが弓型に返りそうになったときは焦りました。途中からコツはつかめるようになってきたものの、手にまめができるのは辛かったです。

ゴール後、3時間半ぶりに地面を歩いたときは達和感がありました。大学生活の良い思い出になりました。顧問の先生の呼びかけで、猪苗代湖の環境を守る水草回収活動にも参加しましたが、こうした活動を通じて、猪苗代湖がもっときれいになってほしいと思っています。

平成22年度 第61回東北地区大学体育大会成績

総合 第5位

●男子50m自由形
3位 須田 祐輝(電気2年)

めざすは東北制覇！

●アメリカンフットボール部

高田 一平さん(建築学科3年)
渡辺 僚さん(機械工学科3年)

私たちアメリカンフットボール部は、「東北制覇」を合言葉に練習に励んでいます。現在は東北学生アメリカンフットボール連盟2部に所属。2部で1・2位になると1部との入れ替え戦に出場できますが、今年は惜しくも3位で出場は果たせませんでした。アメリカンフットボールは11人制のスポーツですが、私たちのチームは東北のリーグの中で一番少なく、部員はわずか12人しかいません。試合中の選手交替には制限がないため、人数の多いチームは攻撃と守りで選手を入れ替えたり、練習もそれぞれの選手に分かれで強化を図りますが、私たちは両方こなさなければならないので大変です。たとえ試合中に足がつたりしても休むことができません。高校時代、野球やサッカー、バドミントンなどの経験者はいますが、アメリカンフットボールの経験者はまったくのゼロです。練習は週4回。土・日曜日は社会人のチームと合同で練習することもあります。

1部リーグ昇格のためには、個々のスキルアップと多くの部員が必要です。私たちと一緒に頑張ってみたいという人は、ぜひ気軽に声をかけてください。

◎アメリカンフットボール部のホームページ
<http://crowjackets.web.fc2.com/frame.htm>



**スキルアップ
リポート**

工学部では、資格試験対策講座や海外研修など、学生一人ひとりの可能性をサポートするためのさまざまなプログラムを用意しています。スキルアップをめざし、実際にプログラムに参加した学生の声を集めました。

留学先でしかできない実験に挑戦

平成22年度日本大学大学院海外派遣奨学生

■機械工学科2年 安部田泰さん サウスハンプトン大学(イギリス)留学中

留学を決めた理由は3つ。自分の知らない世界を見聞きしたいと思ったこと、自分の研究に対して新たな発見ができるのではないかと思ったこと、そして海外の友人をつくることです。現在は留学先の大学で機械のメンテナンスに関する研究に従事しています。また、英語でのコミュニケーションを上達させるために、語学の学習にも取り組んでいます。留学を通じて自分の意見を積極的に述べることの大切さを実感しました。ともと人前で話すのは苦手なのですが、英会話のトレーニングも兼ねて、ものおじせずに話すように心がけています。

留学中は留学先でしかできないような実験にチャレンジしたいですね。プライベートでは風景や街並みを見るのが好きなので、休日を利用し、いろいろなところを訪れてみたいです。留学の魅力は、これまで自分の知らなかった世界を実体験できること。海外の友人ができることで、自分の成長にもつながると思います。将来は世界のいろいろな人たちと一緒に仕事ができるような技術者になることが目標です。



留学先で出会った人とのつながりを大切に

平成22年度日本大学交換・派遣留学生(英語欄)

■情報工学科4年 山川紘一さん トロント大学(カナダ)留学中

高校の頃から海外での生活を体験してみたいと、ずっと考えていました。1年生のときから課外英会話講座を受講し、2年生のときはケンブリッジサマースクールに参加したこともあります。現在はトロント大学の語学コースでELP(English Language Program)のAE(Academic English)を受講しています。AEのクラスは週に5日間。冬学期は建築と社会学の授業を履修する予定です。大学にはダンスや格闘技など、あらゆるものがあるのですが、何が一番面白いかでも参加できるのを探したいと思っています。

アフリカからの留学生がいたかと思えば、たくさんの中国系の人があり、カナダはさまざまなバックグラウンドを持った人たちがうまく溶け合っているところだと思います。そんな独特の社会を感じることができるのは、カナダ留学の大きな魅力でもあります。

英語圏での留学は、生活の全てを英語で行うということなのかなを実際に感じることができます。そして、それは日本においては得がたい環境でもあります。できれば将来は自分の英語力を活かせるような仕事に就き、今回の留学で知り合った人たちとのつながりを大切にしながら、国境を越えた付き合いを続けていきたいですね。



英単語コンテストで表彰されました

9月17日(金)、総合教育の英語研究室の主催で「英単語コンテスト」(1年次生対象)を開催し、10月21日(木)には成績優秀者40名への表彰式を行いました。「英単語コンテスト」は昨年度から実施しているもので、今年度は299人の学生がチャレンジしました。インターネットに接続したコンピュータを使って、英語の4技能を自習できる教材「eラーニング(基礎英語演習)」を活用できることから、夏休みを使って勉強したという学生も多く、表彰を受けた学生からは「自信につながった」という声が聞かれました。その中から4人の学生にインタビューをしました。

■建築学科1年 伊藤淑恵さん (写真左端)

担任が英語の先生で、入学当初から勧められていましたが、英語が得意でなかったので、英単語はマスターしたので、次は英文法やリスニングの勉強をし、TOEICで高得点が取れるよう頑張ります。

■建築学科1年 岡部武志さん (写真右から2番目)

在学中にTOEICを受けたいので、その勉強にもなると思い、参加しました。今回、表彰されたのは嬉しかったです。今後は英語だけでなく、カラーコーディネーターや福祉住環境コーディネーターなど、他の資格にも挑戦したいですね。

■生命応用化学科1年 小橋桃子さん (写真左から2番目)

覚えたものはマジックで消したりして、モチベーションを上げながら勉強しました。就職で有利になるように、ぜひともTOEICは受験したいと思っていますので、英語の授業をさらに頑張りたいです。

■土木工学科1年 遠藤直樹さん (写真右端)

eラーニングは音声が出てくるので、これなら勉強しやすいと思いました。英語力は就職で有利だし、TOEICで高得点を取ると単位がもらえるので、これからも英語の勉強に燃えたいです。



出題のポイントや勉強方法などがよくわかる 土木工学科公務員対策講座

土木工学科公務員対策講座は、土木工学科の2年次生以上を対象に実施しています。



■土木工学科2年 薩藤正平さん

将来は公務員になって、まちづくりや地域貢献がしたいと思い、土木工学科を選びました。土木工学科公務員対策講座は、土木に関わる技術職公務員を目指すための専門の対策講座です。土木工学科の2年次生以上が対象で、講座は毎週木曜日の午後6時から。構造力学、土質力学、水理学、コンクリート工学、測量学、水環境工学などの授業があり、土木工学科の先生方がテキストをもとに、出題されやすいポイントや勉強方法などをわかりやすく教えてくれます。教養試験対策として、土曜日に開講している公務員試験対策講座も受講しています。通常の勉強と両立させるのは大変ですが、共通の目標を持った仲間とともに頑張っています。公務員試験合格者体験発表会があるので、先輩の話をよく聞いて参考にしたいですね。公務員になったら地元・新潟の道路や橋を整備し、事故のない住みやすい地域にしたいと思っています。



宅地建物取引主任者試験対策講座で難関資格を取得

工学部では、毎週土曜日に宅地建物取引主任者試験対策講座を開講。希望者は学科を問わず、1年次から誰でも受講することができます。合格率が15%前後という難関の資格を取得した2人の学生に話を聞いてみました。

※今年の合格発表は本誌発行のため昨年の合格者の声を掲載します。



■土木工学科4年 菅野友貴さん

在学中に何か資格を取りたいと思って、2年になってから宅地建物取引主任者試験対策講座を受講し、2度目の挑戦で合格しました。配点上、ポイントとなるところを教えてもらえたので、とても勉強しやすくて、モチベーションも上がりました。就職に向けて有利になるとと思うし、住宅に限らず、自分なりに目標を決めてやり遂げたことは重要です。資格は大きな武器になるので、ぜひみんなにも挑戦してほしいですね。



■土木工学科2年 増田渉さん

大学に入ったら、ぜひ資格を取りたくて受講しました。教科書だけではわからないところは、講師の先生に細かく解説してもらえたので理解が深まりました。先生からは「ここは重要」と指摘してもらったり、受験前の心得を教えてもらったこともプラスになりましたね。1年のうちに合格できたので、自分でもびっくりでした。就職に向けて自分のアピールポイントにしたいと思います。

クースアップ工学部

最近の工学部生の旬の話題を
ピックアップしました。

大規模な土木工事の現場を体験



10月18日(月),希望者を対象とした土木工学科学生見学会が開催されました。これは実際の土木の現場を体験してもらおうという目的から、各界で活躍する工学部の卒業生らが中心となって企画したもので、30名あまりの学生が霞ヶ関官房庁街(会計検査院)及び大成・大豊・錢高建設共同企業体による品川線シールド作業所の2ヶ所を見学してきました。品川線シールド作業所では、地下約50メートルの現場で実際の工事の様子を目の当たりにし、そのスケールの大きさに驚きの声があがっていました。



参加した学生の声

★土木工学科2年 田中広忠さん(写真左)

一度いいから実際のトンネル工事の現場を見たいと思っていました。土木工学の可能性を体感できることはもちろんですが、実際の現場で働く皆さん姿が見て、就職に対する意識が高まりました。土木関係の方だけでなく、電力関連の方もいたので、他の分野との連携がいかに大切かを改めて感じました。

★土木工学科2年 松本拓馬さん(写真右)

僕の父は高速道路の仕事をしていて、比較的大きな現場は見せてもらつたことがあるのですが、今回は想像以上のスケールだったので、その迫力に圧倒されました。まるでドラマでも見てているような気分で、「将来もしかすると自分も携わることになるかも知れない」「いや、きっと携わってみせる」という熱い思いがこみ上げてきました。



白熱!学科対抗ソフトボール大会



爽やかな秋晴れに恵まれた10月23日(土),恒例の学科対抗ソフトボール大会を開催しました。各学科の予選を勝ち抜いた6チームのほか、1年生チームと教職員チームの合計8チームが参加。好プレーあり、珍プレーありという和気あいあいとした雰囲気の中、優勝を果たしたのが、電気電子工学科マイクロ波工学研究室のチームです。

電気電子工学科のソフトボール大会に統いてV2に輝いたメンバーに喜びの声を聞いたところ、「モットーはみんなで楽しくやること。今日はチームワークの勝利です!」「一部経験者もいますけど、基本は全員が野球好き。つなげるバッティングを心がけたのが良かったのだと思います」「優勝は大きな励みになります。研究も頑張ろうという気持ちになりましたね」などといった感想が聞かれました。

準優勝は電気電子工学科の1年生チーム。惜しくも優勝は逃してしまいましたが、先輩チームを相手に健闘が光りました。また、3位決定戦では、土木工学科の地盤防災工学研究室が熱戦を制しました。



優勝した電気電子工学科マイクロ波工学研究室のチーム。

準優勝した電気電子工学科の1年生チーム。

水草回収活動で 猪苗代湖をきれいに



10月30日(土),アカデミア・コンソーシアムふくしまの「福島学」の一環として、猪苗代湖の水草回収活動が行われました。『清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会』の中村玄正会長(日本大学名誉教授)の呼びかけあって、工学部からは学生57名が参加。あいにくの雨模様の中、地域の皆さんと協力しながら、水際に打ち寄せられた水草をコンテナボックスに集めました。

猪苗代湖の環境を守るために回収された水草は、やがて堆肥にされて、田畠の有機肥料として活用されますが、環境にやさしいサイクルはまさにロハスの考え方そのもの。ロハスの工学に対して関心の高い工学部の学生にとっては、より実践的な学びの場になりました。

※アカデミア・コンソーシアムふくしまとは、福島県内の高等教育機関などが連携した「知の連合体」。



参加した学生の声

★環境にやさしいロハスの工学について研究しています。今年は猪苗代湖の水草が水質にどんな影響をもたらしているのかを調査するために参加しました。最初に水草を見たときはすごい量だと思いましたが、みんなで力を合わせて作業したら、思いのほか早く終了しました。活動を通じて地域の方々と交流もできるので一石二鳥です。(機械工学科の学生)



★猪苗代湖に関する研究をしているので、きれいにするのは当然と思って参加しました。いつの間にか夢中になってしましました。今できるのは水草を回収し、地域の皆さんに理解してもらうことですが、もっと根本的に解決していくことも必要。例えば小学生に対する環境教育や下水道の完備などは欠かせません。(土木工学科の学生)



福島県内や栃木県の企業で、 ものづくりの現場を見学

実際にものづくりの現場を見学し、より実践的な学びの場として活用しよう。そんな目的で10月4日(月),機械工学科の1年次生を対象とした企業見学会を実施しました。

見学先は日産自動車(株)いわき工場、林精器製造(株)、山本電気(株)、(株)非電化工房の4社。当日は4つのグループに分かれて、製造ラインや実験現場を見学したり、企業や製品の特徴について詳しい説明を受けました。日産自動車(株)いわき工場では、人気車をパックに記念撮影を行いました。技術的な面だけでなく、最前線の現場で働いている社員の皆さん熱いスピリットも体感することができました。



山本電気(株)での企業見学会。

参加した学生の声

★1台の車づくりには多くの技術者が関わり、高度な技術だけでなく、スピードも求められることがわかった。

★日産自動車は「リサイクル100%」、環境に対する配慮が万全なのは感心させられました。

★社員の皆さん一人ひとりが頑張って働く姿はとても印象的でした。工場内は緊張感がみなぎっていて、生半可な気持ちでは進めないと思いました。

★部品をロボットが運んでいるのはビックリ。機械化が進んでいて、まるで工場全体が一つの装置のようでした。

★業界全体の話は興味津々でした。自分の就職先を考えるうえでも参考になりました。

★自分たちの学んでいることが、社会の中でどのように役立っているのかを知る良い機会になりました。今後もっといろいろな企業を見てみたいです。



日産自動車(株)いわき工場での企業見学会。

2010

就職 最前線

今年も強さを發揮! 工学部生の就活



福島市役所に内定

宍戸 勇太さん 土木工学科4年

就活では事前の準備を
しっかりとすることが大切

自分のふるさとで公共構造物の計画や施工、維持管理を通じ、安全で安心できる生活を実現したくて公務員を志望しました。当初は一般企業も視野に入っていたので、学内にいながら多くの企業の担当者と面談できる工学部就職セミナーなども有効に活用しました。幅広い企業とのつながりや卒業生のネットワークは、工学部の大きな強みだと思います。就活では事前の準備をしっかりとすることが大切。地域の方から「ありがとう」と言われるように、常に向上心を持って働きたいですね。



大和小田急建設(株)に内定

前田 和秀さん 土木工学科4年

やるべきことをやって、
あとは楽しむぐらいの
気持ちが必要

地元にある企業で、工学部就職セミナーなどの印象も良かったので志望しました。日本大学の知名度が高く、卒業生が全国で活躍しているのは工学部の大きな強みだと思います。就活では自分のやりたいことを明確にしきらんとした将来設計を立てることが大切です。会社のネームバリューダけでなく、その会社を内側から見ることも必要です。会社のことをよく知るうえでは、OB訪問も有効です。就活はやるべきことをやって、あとは楽しむぐらいの気持ちで臨みましょう。



東北電力(株)に内定

五十嵐 栄太郎さん 電気電子工学科4年

学校推薦を活かし、
高校時代からの
憧れの企業へ

東北電力は高校時代から目標としている企業でした。工学部への入学を決めたのも学校推薦があり、就職に強さを発揮できると思ったからです。まずは学校推薦をもらうために、ふだんの勉強を頑張りました。エントリーシートは、先生に10回以上も添削してもらいました。一流企業からの推薦が多いのは工学部の最大のメリット。研究室の先輩のアドバイスも励みになりました。入社後は電力の安定供給を通じて、東北地域の人々の暮らしを守っていくような電力技術者をめざしたいですね。



NECエンジニアリング(株)に内定

鈴木 昭吾さん 電気電子工学科専攻2年

常に前向きに
考えることが大切

幅広い事業領域の中で、自分の目標に向かってチャレンジできると思って志望しました。就活では自分の研究と就職に向けた勉強の両立で苦労しましたが、とにかく時間を無駄にしないように心がけました。早い段階からの就職支援が充実しているのは工学部の大きな特徴。就職ガイダンスに定期的に参加することで、自分のモチベーションはぐんと高まります。就活中は決してネガティブにならず、失敗したときはどう改善して次に活かすか、常に前向きに考えることが大切です。



大和ハウス工業(株)に内定

佐藤 希美さん 建築学科4年

迷うぐらいなら
即行動を心がけよう

全国というフィールドで自分の力を試したかったのと建設系の大きな建物にも関わらなくて志望しました。企業によっては学内で入社試験が受けられるのは、工学部の大きなメリット。実際に企業で活躍している方が講師として教えてくださる授業もあるので、実社会のことをよく知ることができます。教職課程ではプレゼンテーション力を養うことができ、企業の面接でも役立ちました。就活で大切なのは、とにかく後悔しないように動くこと。迷うぐらいなら即行動を心がけましょう。



鹿島建設(株)に内定

岡野 健太郎さん 建築専攻2年

就活は、もう一度自分を
見つめ直すチャンス

私が鹿島建設を志望したのは、リクルーターの方をはじめ諸先輩に会社の魅力、またさまざまなアドバイスをいただき、この会社で20・30年と精励していくかと考えたからです。就活中は、建築系はもちろん、さまざまな企業の説明会に参加することで、自分の専門以外の知識を幅広く学び、どの業界で活躍していくのかをもう一度考えることができました。就活は自分を見つめ直すチャンスです。多くの企業を知り、本当にやりたい仕事は何かをもう一度見つめ直すことで「可能性」はさらに広がると思います。



明治製薬(株)に内定

田中 友章さん 物質化学工学科4年

ふだんから意識して
コミュニケーション力
を養おう

社員が自社の商品に自信を持ち、製品が売れる喜びを感じる企業だと思って志望しました。早い段階から就職ガイダンスやSPI対策講座などの就職支援が充実しているのは、工学部の優位な点だと思います。全国から多くの企業が集まる工学部就職センターは、工学部の学生を優先的に採用したいと考えている企業ばかりなので、内定を取る大きなチャンスです。就活で鍵を握ってくるのはコミュニケーション能力。急に身につくものではないので、ふだんから意識していろいろな人と話すことが大切です。



日立成エレクトロニクス(株)に内定

岩永 抗太さん 物質化学工学科専攻2年

失敗しても気持ちを
切り替えて、次の戦いに
備える姿勢が大切

これまで培ってきた基礎知識を活かし、常に「世界一」をめざしているという企業創りの一員になりたくて志望しました。工学部の強みは何といっても卒業生が多く、幅広いジャンルで活躍していることです。求人情報が豊富なことも魅力の一つ。就活ではとにかく気持ちの切り替えが大切だと実感しました。たとえ不採用が続いたとしてもポジティブな考え方を持ち、次の戦いに備える姿勢が大事です。将来は世界に通用するようなエンジニアをめざしたいですね。



トヨタ自動車(株)に内定

広瀬 陵丞さん 機械工学科4年

入念な準備と迅速な行動、
次に活かす振り返りが大切

エンジニアとして最大限に成長できるフィールドが広がっていることに魅力を感じて志望しました。日本中に卒業生がいることと優良企業からの求人が多いことは、就職に強い工学部の証だと思います。企業の方が来学して直接面談てくれる学内(個別)説明会に復讐しました。就活では入念な準備と迅速な行動、失敗を次に活かす振り返りの3点を繰り返すことが大切です。入社後は初心を忘れず、よりグローバルな視点を大切にしながら、エンジニアとして成長していきたいですね。



JFEスチール(株)に内定

山中 健司さん 機械工学科4年

就活は
早めのスタートが大切

入社したいと思ったのは説明会や工場見学がきっかけです。就活は自分を見つめ直す貴重な時間になりました。工学部の就職支援の中ではCSNaviが一番役立ちました。工学部生向けの就職に関する情報がたくさん載っているので、ぜひ活用してほしいと思います。就活では何といても早めのスタートが大きな鍵を握ります。面接ではできと答えることも好印象につながります。入社後は早く一人前になって、周りから頼りにされるような人になりたいですね。※CSNaviとはインターネットに接続できるパソコンがあれば、在学生なら誰でもどこにいても就職に必要な情報を得られるCareer & Skill up Navigation System。



(株)NTTデータに内定

井出 智さん 情報工学科4年

「絶対に入るんだ!」という
強い気持ちで臨むこと

日本のインテグレータ業界をリードする会社なら、自分をさらに成長させられると思ったことが志望の動機です。当初は教職をめざしていたこともあり、本格的な就活を始めたのは3年の3月になってから。先生が個別に面談をしてくださり、とにかく「甘くないぞ」と叱咤激励してもらえたことは大きな励みになりました。就活をするうえで企業研究は必須です。自分の希望する企業に「絶対に入るんだ!」という強い気持ちで臨めば、必ず運も開けてくるはずです。



富士通(株)に内定

泉 奈津子さん 情報工学科専攻2年

明確な目的を持ち、
モチベーションを高めよう

さまざまな教育機関に携わっている富士通でSEとして活躍したいと思い、学科推薦を活かして内定が決まりました。日本中の企業を学内に招いて工学部就職セミナーを開催していることや、多くの卒業生がリクルーターとして来学しててくれるでの体験を聞いたりできることが役立ちました。履歴書の添削や面接の練習など、研究室の先生から個別に指導してもらえたのは心強かったです。教職をとったことも役立ちました。就活で大切なのは、しっかりと目的を持って行動すること。自分の目的が明確なら、きっとモチベーションも保てるはずです。



工学部の就職支援

膨大な卒業生のネットワークとともに、早い段階からの充実した就職支援は“就職に強い工学部”的パワーの源です。学生一人ひとりの可能性をパックアップする就職支援の魅力について聞きました。



阿部 吉孝さん

インターンシップで、希望する企業の職場を体験

インターンシップ

- POINT!**
- インターンシップの受入先が豊富。
- 事前のガイダンスで準備は万全。
- 体験者の報告会も役立つ情報が満載。



鉄道関係の仕事に興味があり、鉄道業界最大手の業務を体験することで、土木工学がどのように役立っているのかを自分の目で確かめて、インターンシップに参加しました。

インターンシップの受入先であるJR東日本仙台支社では、特殊な夜間作業や軌道などを検査するEast-iの前頭添乗を体験することができました。また、首都圏の輸送を管理している東京総合指令室を見学できましたことも貴重な体験になりました。

鉄道の保線という分野は、大学のカリキュラムでは決して学べません。本格的な就職活動を始める前に、自分の第一志望の企業で業務を体験できたことは、就職活動を進める上でとても大きな自信につながりました。

女子学生向け講座

女子学生向け講座で、女子の就活のポイントをチェック

POINT!

- 女性の視点を活かしたきめ細かな指導。
- 実際に体験しながら身につく。
- 就職のプロによる的確なアドバイス。



佐藤 千夏さん



小林 周平さん

企業就職試験対策で、早い段階から就活に備えられる

企業就職試験対策

- POINT!**
- 早めの対策で万全の準備。
- 実際に企業で行われている各種試験を体験。
- SPI対策講座の費用は大学が負担。



3年の春の就職ガイダンスの中で、さまざまな種類の試験があることを知り、試しに受けたところが印象的でした。早い段階から企業就職試験対策が受けられるのは工学部の大きな強みの一つ。自己分析テスト(R-CAP)やSPI対策講座、クレベリン検査など、事前にさまざまなテストを経験したおかげで、本番では落ち着いて臨むことができました。テストの結果は郵便で送られてきて、自分の弱点を知ることができたので、その後、具体的な対策も立てやすくなりました。

就活では、自分が希望する業界や企業のことをよく調べて、まずは説明会に参加してみることが大切です。第一志望の面接では緊張するので、慣れておくことも必要だと思います。

工学部就職セミナー

工学部就職セミナーなら、学内で多くの企業と面談が可能

POINT!

- 全国から多くの企業が学内に集結。
- 内定に結びつく絶好のチャンス。
- OBがリクルーターとして来る企業も。



全国から一流企業や上場企業が集まる工学部就職セミナーなら、学内にいながら多くの企業の担当者と直接面談できます。工学部の学生を探用したいと考えている企業ばかりで、わざわざごちらから出かけなくても、その場で複数の企業を見比べることができます。しかも担当者1人に対して学生は1人から2人なので、じっくりと話ができるのは嬉しいですね。インターネットでは得られないような情報もキャッチできるし、面接の練習になります。

工学部の就職支援の中では、就職指導課による履歴書の添削も役立ちました。就活では自分自身が主人公です。努力を惜しまず、強い意志を持ち、精一杯自分をアピールしてください。



熊谷 佑人さん

公務員試験対策講座

公務員試験対策講座は、公務員を志望する学生の強い味方

POINT!

- 基礎から実践、完成コースまで徹底指導。
- 学科の枠を越えて、共通の目標を持った仲間ができる。
- 教材以外の費用は、すべて大学が負担。



工学部の就職支援の中でもっとも役立ったのが公務員試験対策講座です。公務員志望の友人と一緒に受けてみようと思い、3年になってすぐに受講しました。基礎から丁寧に教えてもらえるので、ゼロからのスタートでも心配なし。「合格」に向けてひとつひとつ理解を深めていくのは、この講座の大きな魅力だと思います。教材以外の費用はすべて大学が負担してくれるのです。おかげで友人とともに「合格」の喜びを分かち合うことができました。

僕の場合、本格的に公務員をめざそうと思ったのが3年の後半になってからなので、取りかかりも遅くなってしまいましたが、やっぱり大切なのは早めのスタート。公務員になりたい人は、公務員試験対策講座を有効活用して、諂ひずに頑張り抜いてほしいと思います。



木下 直人さん

課外英会話講座

課外英会話講座で身につけた英語力が、大きなアピールポイントに

POINT!

- 空き時間を利用して学内で受講できる。
- ネイティブスピーカーが指導。
- 年間約100回にわたって開講。



五十嵐 拓也さん

在学中に海外旅行を経験したいと思っていたこと、就職に有利になると感じて活用しているのが、授業の空き時間を利用して受けられる課外英会話講座です。学部生3年のときから始めて、大学院に進んだ今でも続けています。講師はすべてネイティブの先生方で、教え方や教材にも工夫を凝らしているので、毎回新鮮な気持ちで受講することができます。日常で使えるような実践的な英会話が中心なので、ロンドンへ一人旅に行ったときも大いに役立ちました。TOEICの点数もどんどん上がり、就活ではその努力が大きなアピールポイントになりました。学科の垣根を越えた友だちができるのも、この講座のメリットです。

就活にあたっては、ひとつひとつの講座や会社説明会に100%の本気で取り組んでください。そうすれば必ず何か収穫があると思います。その収穫の積み重ねが、あなたを納得のいくゴールへと導くと思います。

社会で活躍する卒業生

各界の第一線で活躍する卒業生にインタビューを行いました。

日本だけでなく、 世界に目を向けてほしい

—日本大学工学部に入学した理由をお聞かせください。

附属高校（日本大学豊山高校）の出身で、私が卒業した頃は「全員日大」が原則だったこともあり、そのまま日大へ。学部見学で郡山を訪れた際、自然に恵まれた環境と教職員の皆さんの丁寧な説明に感激し、工学部への入学を決めました。私は広島生まれの東京育ちですが、できれば親元を離れて「自立したい」という思いが強かったことも理由の一つです。

—建築学科を選んだ理由は何ですか。

父親が土木技術をしていた関係もあって、技術系には親しみを感じていました。とともに絵や工作には興味があったので、建築学科を選びました。

—大学時代はどんな思い出がありますか。

磐梯山や安達太良山、那須岳など、学友とはよく登山へ行きました。冬は猪苗代スキー場でスキーを楽しみました。レスリング部の練習や北桜祭での神輿担ぎ、週3回の家庭教師など、学生時代の思い出は尽きません。私にとって学友はかけがえのない宝物ですね。

—大学時代の学びで特に印象に残っていることは何ですか。

建築研究会の作品づくりでは、チームワークの大切さを学びました。これは今の仕事の中で、一つのプロジェクトを手がける際にも通じるものがあります。レスリング部では、体力だけでなく、精神力や忍耐力を身につけることができました。

—卒業後、今の会社を選んだ理由をお聞かせください。

もともと建築設計事務所が希望でしたので、国内でもっとも歴史のある著名な設計事務所で働きたいと思い、入社しました。

—大学で得たものは社会の中でどのように活かされていますか。

やはり一番大きいのは教授との人脈です。在学中、多くの素晴らしい先生方から指導を受け、卒業後もさまざまな相談をし、的確なサポートをいただいています。当社の社員募集にあたっても、大変優秀な院生や学生を紹介していただいている。企業に大学の先輩がいるというのは、後輩にとって大切なことだと思います。

—ぜひ今後の夢をお聞かせください。

これからは日本だけでなく、世界とりわけベトナムや台湾などの東南アジアを舞台に、よりグローバルな設計活動を行っていきたいです。世界三大建築家の一人であるフランク・ロイド・ライトの下で建築デザインを学んだアントニン・レーモンド氏。彼から直接指導を受けた最後の弟子として、その哲学を継承していくことは私の重要な務めです。

—工学部の後輩たちにメッセージをお願いします。

どんなに厳しい環境の中でも、自分の目標に向かって挑戦を続けてほしいと思います。チャンスというのはそう多くないので、限られた機会を大切に活かしてほしいですね。今後はグローバル化が加速していくので、英会話は必須です。国際人としての素養に磨きをかけながら、常にポジティブな発想で前向きに行動してください。在学生の皆さんには「忍耐はすべての扉を開く」という言葉を贈ります。



(株)レーモンド設計事務所 代表取締役
三浦 敏伸さん

1966年、建築学科卒業。日本でもっとも古い歴史を持つ建築設計会社のレーモンド設計事務所に入社。近代建築の先駆者として知られるアントニン・レーモンド氏の哲学を受け継ぎながら、建築家として世界を舞台に活躍。現在は日本大学大学院工学研究科建築学専攻の講師も務める。広島県出身。



レーモンド設計事務所に入社した頃。
レーモンド夫妻。



レスリング部で部長を務めていた栗原様(写真右)。

“中身勝負”で 真面目に努力すること

—日本大学工学部に入学した理由をお聞かせください。

当時の自分がよく知っている大学といえば日本大学しかなく、とにかく日大に入りたいという一心で、必死に勉強しました。機械工学科を選んだのはオートバイが好きだったからです。

—大学時代はどんな思い出がありますか。

ボクシング部では主将を務め、東北地区大会で総合優勝を果たしました。先輩や同輩、後輩に恵まれ、自分にとっては貴重な心の財産になっています。また、学費の足しとして一生懸命アルバイトをしたことは、「土・日、休日や夜を徹して中身勝負」という現在の研究スタイルにも通じています。学業面では特待生をめざして頑張りましたが、平均点で1点及ばず、悔しい思いをしました。ただし、結果として成績が上位であったことが、後の人生にプラスとなりました。オートバイが好きで、日本中をツーリングしたこと、今となっては良い思い出です。

—現在の勤め先を選んだ理由をお聞かせください。

研究を通じて自分の技術を試し、その成果を国民の生活につなげていきたいと思って選びました。

—お仕事をなさっていて、どんなときにやり甲斐を感じますか。

私の仕事は車の安全基準や安全性能評価試験方法を策定するための基礎研究を行うこと。時間をかけて開発した「車の安全の基準値」や「安全評価ツール」が日本やヨーロッパの安全基準に採用されたり、苦労してまとめた論文が世界で評価されたときは、大きなやり甲斐を感じますね。

—大学で得たものは社会の中でどのように活かされていますか。

大学で学んだ「技術の基」がさまざまな形で活かされています。学会の発表で先生方から指導を受けたことは、今も報告書の作成や学会、職場の発表などで役立っています。1年間米国に留学した経験は、海外に相手にする現在の業務に結びついています。

—ぜひ今後の夢をお聞かせください。

自分の技術を若い人たちへ伝承、育成すべく、今の研究を続けながら連携大学院の教授となることが目標です。日本だけでなく、海外でも技術や人間性に磨きをかけ、よりグローバルな視点でとらえられるようなスケールが大きくて心豊かな人間になりたいです。

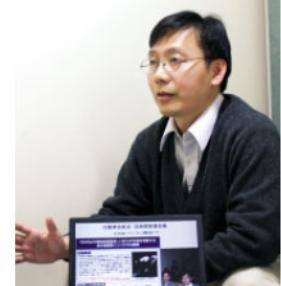
—工学部の後輩たちにメッセージをお願いします。

「中身勝負」で臨むことが重要です。どんな状況の中でも「真面目にこつこつ努力」すること。真面目に中身勝負を貫いていれば、その努力や姿勢を見て、必ず誰かが手を差し伸べてくれるはずですから。

新・社会人からひと言!

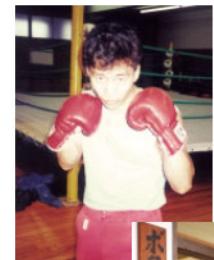
在学中は、建築に必要な考え方や基本的な知識を身につけることができました。気の合う友人をつくることができたのも大きな収穫です。

現在の会社を選んだ理由は3つ。リフォーム業は今後さらに伸びる可能性があると思ったこと、自分のやりたいことが一度にできる職種（営業設計職）があったこと。そして何より新築と違って、解体の工程も加わるため、より多くのことが学べそうだと思ったことです。社会人になってまだ1年目ですが、まずは目の前のお客様が自然に笑顔になれるような仕事をすることが目標です。



(独)交通安全環境研究所 主席研究员
松井 靖浩さん

1991年、機械工学科卒業。2004年、自動車工学における研究成果の表彰としては世界最高賞といわれる米自動車工学会の優秀論文賞を受賞。山口県出身。



思い出が詰まった
ボクシング部道場。



今年の9月には米国選抜者へ。



住友林業ホームテック
川又 英気さん
2010年 建築学科卒業

「第11回 産・学・官連携フォーラム」開催!

10月28日(木)、50周年記念館(ハットN E)の大講堂を会場に、工学部と(公財)郡山地域テクノポリス推進機構主催による「第11回 産・学・官連携フォーラム」を開催しました。今回のスローガンは「環境にやさしい革新的なモノづくり」。(株)コスマテック代表取締役の谷島昇氏による「福祉・環境・リサイクル・食の安全」と当社の取り組みについて、(株)ビーアンドエム取締役の山口隆義氏による「医療機器産業へのアプローチ」P & Mの取り組みという2社の事例報告に続き、工学部から機械工学科の村崎隆夫教授による「これから的生活サポートとライフセキュリティ」、電気電子工学科の柴田宣教による「超広帯域FM一括変換技術を用いた光映像配信システム」という2つの研究発表を行いました。このフォーラムを通じて、今後ますます産・学・官が連携し、環境にやさしい技術が実用化することを願っています。

 詳しくは工学部のホームページの「工学部広報PLUS」をご覧ください。



平成22年度科学研究費補助金交付者一覧

研究種目	学科・資格	代表者	分担者 (学内)	連携研究者 (学内)	研究課題名	今年度交付額(千円)		研究期間 (年度)
						直接経費	間接経費	
基盤研究 (B)	土木・教授	岩城 一郎	子田 康弘	—	大型橋脚試験装置により塗装と剥落を与えたRC床版の構造性能評価	1,900	570	H20-22
	電気電子・教授	尾股 定夫	村山 嘉延	—	体内腫瘍の便さを画像化するHaptic型超音波プローブ及び計測装置の開発	2,000	600	H20-22
基盤研究 (C)	土木・教授	長林 久夫	—	—	風水害を被災する樹木の流体力評価に関する研究	500	150	H20-22
	土木・准教授	仙頭 紀明	—	—	粘着力を有する砂質土の合理的な液状化判定手法の開発	2,500	750	H22-24
	土木・専任講師	梅村 順	—	—	流速に着目した浸透破壊規準とその天然堆止めダムへの応用	1,700	510	H22-24
	建築・教授	若井 正一	—	—	身体面に必要なアキ寸法の計測と体系化に関する研究	700	210	H20-22
	機械・教授	横田 理	—	—	非接触式表面テクスチャ試験による生体部位の測定	100	30	H20-22
	機械・准教授	伊藤 新祐	—	—	導電性結合炭素皮膜による電気接点の信頼性向上とエネルギー損失低減の基礎研究	1,500	450	H22-24
	機械・准教授	西本 哲也	—	—	生体信号情報の抽出とそれによる自動車制御への応用のための実証実験研究	500	150	H19-22
	機械・准教授	彭 國義	清水 誠二	—	高速キーピングショットノズルの設計のためのCFD解析の確立	1,700	510	H22-24
	機械・専任講師	長尾 光雄	—	—	筋硬度計測方法および計測装置の開発	2,100	630	H22-24
	電気電子・教授	天野 雄鶴	—	—	リラクシング型風扇・充電機の非線形時変ベクトル制御系の構築とその応用	1,000	300	H21-23
	電気電子・教授	清水 博文	池田 正則	—	表面光電圧法によるフットパッドディスプレイ用多結晶シリコンの信頼性評価技術の開発	700	210	H20-22
	生命応用・准教授	石原 務	—	—	ダブルDDS製剤処方による新規C型肝炎治療法の確立	1,200	360	H22-24
	生命応用・准教授	児玉 大輔	—	—	イオン液体の選択性ガス吸収特性解明と応用	1,300	390	H22-24
	情報・教授	白井 健二	吉川 義雄 小林 義和	—	マイクロ成形によるフォトニックス結晶の高精度化・量産化方式に関する研究	600	180	H20-22
	情報・准教授	小林 義和	白井 健二	—	表面テクスチャによる塗装特性の制御	900	270	H21-23
	情報・専任講師	松井 和宏	—	—	進化計算におけるミクローマクロ型相互作用の定式化とその経済システムへの応用	700	210	H20-22
	情報・専任講師	宮村 優司	—	—	大規模接種問題の領域分割法による並列解析手法の開発	500	150	H20-23
	総合教育・教授	藤原 雅美	—	—	計装化押込み試験とモーリングによるクリープ構成式の予測	1,400	420	H22-24
	総合教育・准教授	野田 工	—	—	実解析的アインシンクタイソルの複素挙動	900	270	H20-22
若手研究 (A)	電気電子・准教授	村山 嘉延	—	—	温湿度一時移動(sET)へ向けた体外受精卵の品質モニタリングシステムの開発	4,400	1,320	H20-23
若手研究 (B)	土木・准教授	子田 康弘	—	—	塩分環境下におけるスケーリングを受けた既設コンクリートの劣化度評価手法の開発	800	240	H21-22
	電気電子・助教	郷古 学	—	—	顕微鏡条件の変化に対する恒常的な外界-状態マッピングの実現とロバストへの応用	900	270	H21-22
	生命応用・准教授	齋藤 義雄	—	—	多情報DNA検出システムのための撮影プローブの開発	1,600	480	H21-22
	生命応用・助教	平野 殖季	—	—	セルラーゼ・ヘミセルラーゼ分子複合体の無細胞合成と試験管内構成	2,700	810	H22-23
	総合教育・准教授	清野 健	—	—	非線形平衡系にみられる間欠性ゆらぎの統計力学とその応用	600	180	H20-22
合 計	件数 27件 (内新規9件)				小 計	35,400	10,620	
					合 計	46,020		

*  は、新規採択者。 * 分担者、連携研究者は学内者(工学部所属者)のみ表記。補助対象事業者は研究代表者・分担者とする。

ノーベル化学賞受賞の田中耕一氏を迎えるノーベル賞受賞者を囲むフォーラム

「次世代へのメッセージ」を開催!

10月28日(木)、「若手研究者を育む」と題したノーベル賞受賞者を囲む「次世代へのメッセージ」が、5号館で開催されました。これは(株)読売新聞社と(株)福島民友新聞社が主催し、工学部が協賛したもので、2002年に「生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発」でノーベル化学賞を受賞した(株)島津製作所フェローの田中耕一氏を囲んで行われました。工学部の学生や地域の皆様など、階段教室を埋め尽くした約550名の来場者は、世界に名を馳せた研究者からの熱いメッセージを真剣な耳で聞いていました。



田中耕一氏による基調講演。



失敗や挫折を恐れず、可能性に挑戦

人、人…で埋め尽くされた5号館の階段教室。(株)読売新聞社東京本社社長・編集主幹の老川祥一氏、(株)福島民友新聞社社長・編集主幹の村西敬生氏による主催者あいさつ、日本大学副総長・工学部長の出村克宣教授による歓迎のあいさつについて田中耕一氏が登壇すると、場内は盛大な拍手で包まれました。基調講演のテーマは「科学・技術を目指す若手と共に考える」。

自身の経歴と重ね合わせながら、東北大工学部で学んだ電気の発想がなぜ(株)島津製作所で化学の発見につながったのかをユーモアたっぷりに紹介した田中氏は、異分野融合や産・学・官連携ではチームワークが鍵を握ってくること、若手の可能性を引き出すうえでは「失敗を成功に、欠点を利点に」という視点が大切なことなど、身近なエピソードを交えながら語ってくれました。挫折の連続だったと語る田中氏ですが、これからの時代を担う若手研究者に対しては、「挑戦や独創は自分で考えることが不可欠。失敗や挫折を恐れず、自分の可能性に挑戦してほしいですね」とエールを送りました。

講演の締めくくりとして紹介されたのが、「一所懸命」を田中氏流にアレンジしたというキーワード。「一所懸命は他所でも費用がかかる」という田中氏の意見には、異分野融合の中でチームワークを發揮する際に、大いに役立ちそうな言葉です。



工学部の
加藤康司教授。



パネルディスカッションの様子。

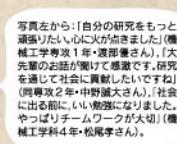
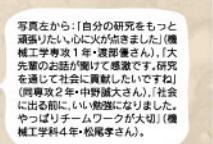
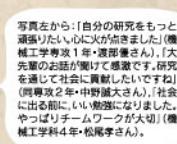
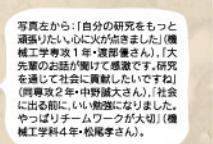
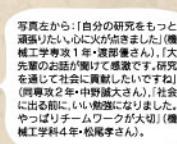
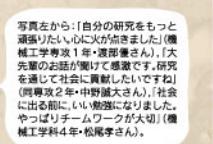
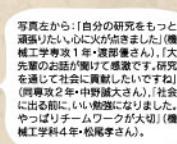
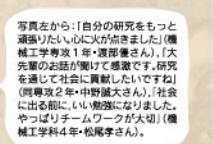
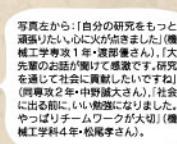
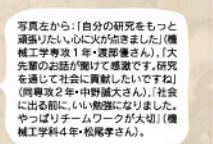
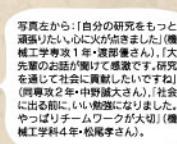
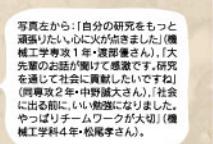
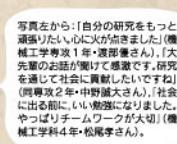
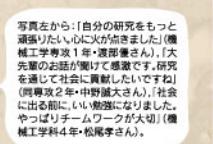
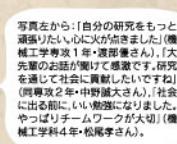
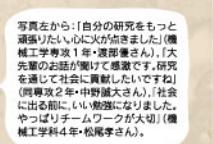
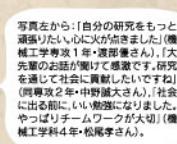
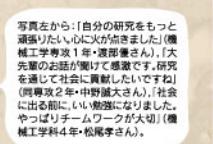
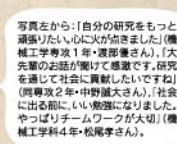
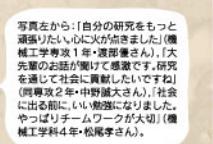
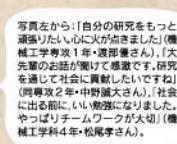
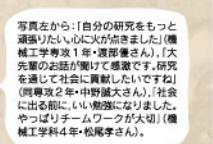
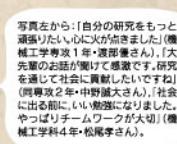
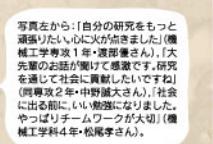
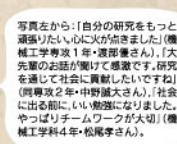
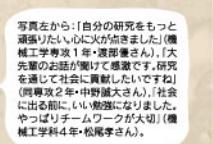
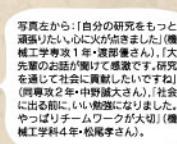
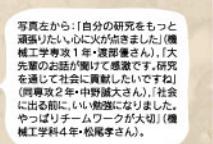
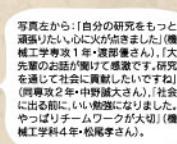
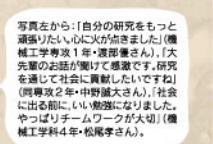
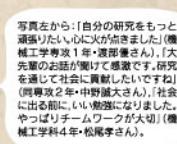
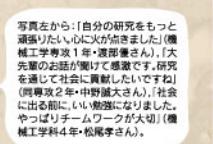
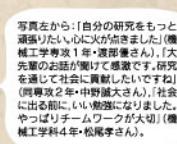
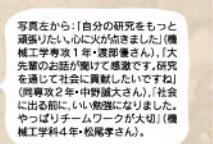
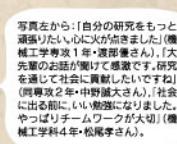
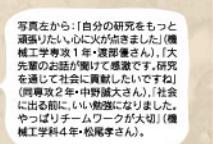
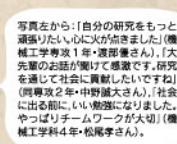
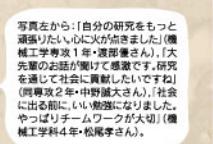
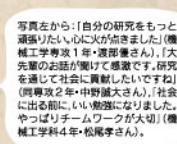
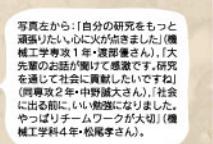
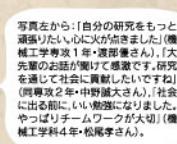
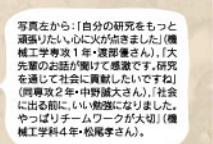
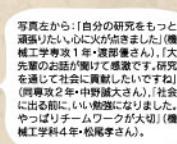
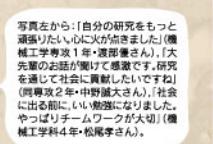
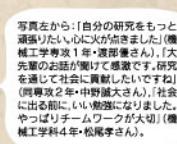
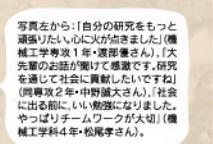
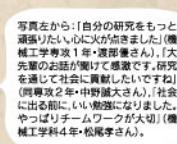
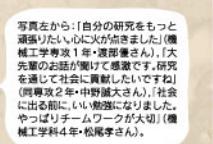
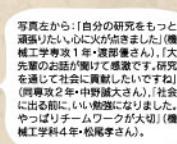
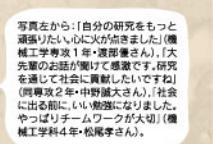
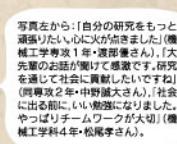
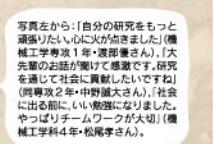
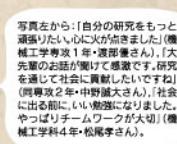
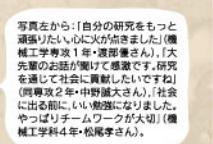
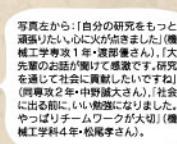
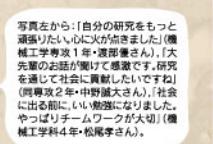
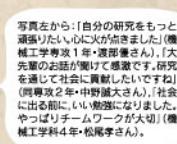
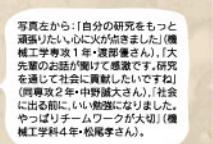
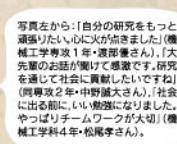
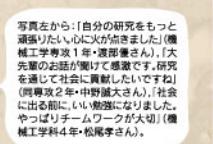
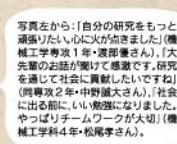
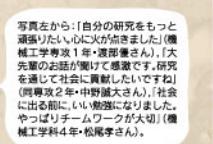
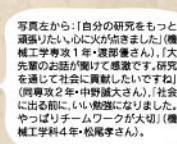
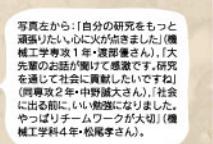
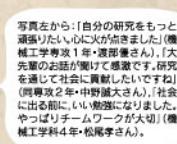
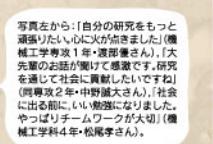
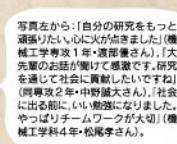
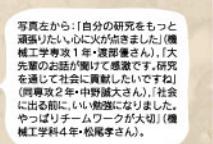
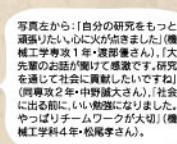
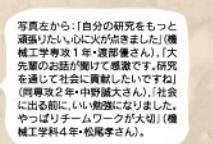
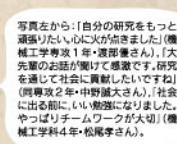
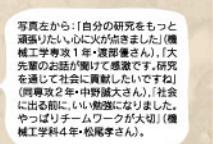
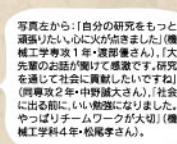
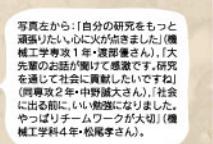
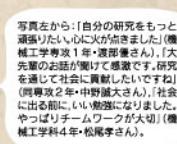
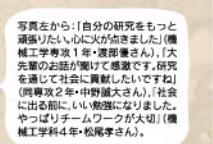
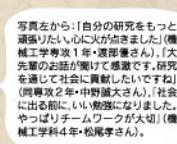
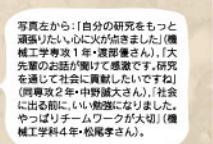
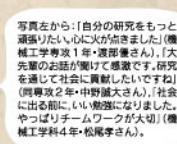
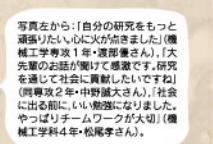
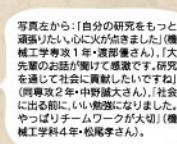
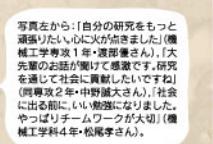
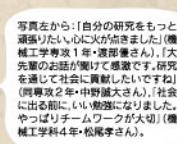
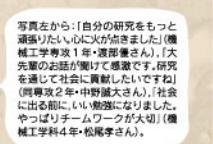
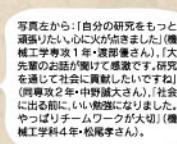
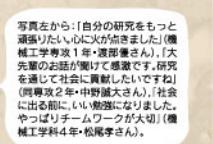
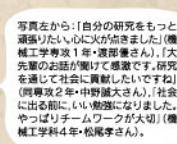
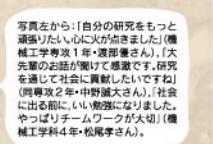
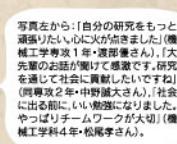
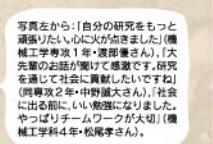
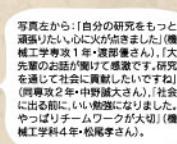
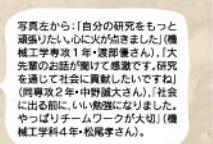
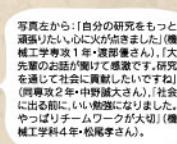
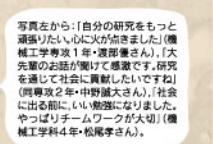
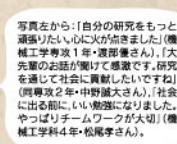
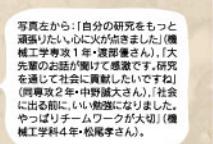
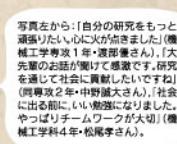
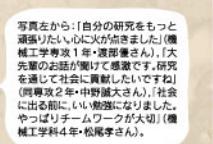
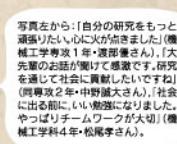
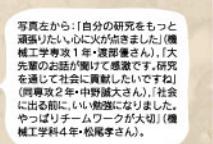
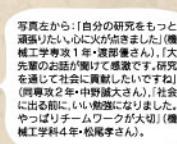
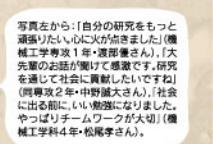
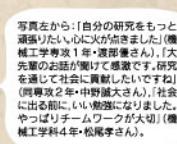
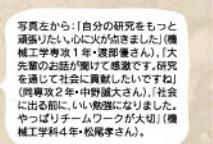
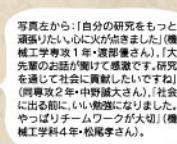
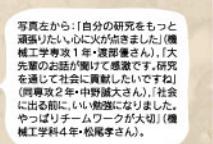
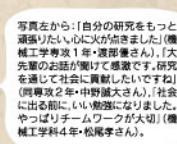
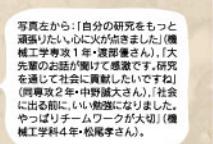
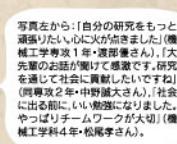
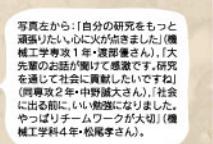
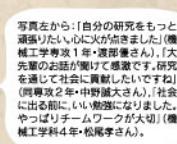
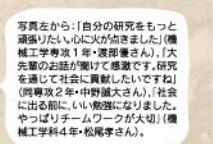
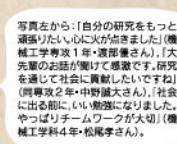
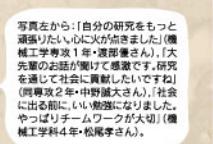
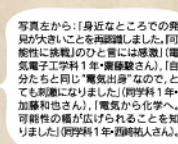
最先端の研究者から次世代へのメッセージ

フォーラムの後半は、(独)科学技術振興機構理事長の北澤宏一氏、ソニー(株)業務執行役員SVPの熊谷修氏、工学部の加藤康司教授という3名の高齢による講演のあと、田中氏を囲んでノーベルディスカッションが行われました。コーディネーターは科学ジャーナリストの東鶴和子氏で、研究者として考えていることや、社会との関わり方など、最先端の研究をリードしてきた3名のメッセージは、どれも興味深いものばかりでした。「これから研究者はもともしゃべりに来るべき」という田中氏の意見には、パネリストの皆さんも頷き合っていました。

その後、休憩時間に回復した来場者の皆さんからの質問にパネリストが答えるという形で質疑応答が行われました。「目標達成のために努力していることは?」「会社に入ったら勉強を続けるために?」など、田中氏への質問が続々と、「今日は学びに来たんだけどなあ」と言いかねないひとひとつつ丁寧に答えていました。

「嬉しい、楽しい、大好き。それこそが化学」という田中氏の言葉に象徴されるように「好き」という気持ちをエネルギーにしながら、生涯にわたって学び続けること。それがこれから日本の研究や技術を支えていくはずです。可能性に挑戦—そんな田中氏からの熱いメッセージは、これから多くの若手研究者の中に火を点けてくれることでしょう。

今回のフォーラムに参加して



工学部だより

工 学部の歌、甦る

この度、日本大学工学部と工学部校友会では、工学部開設60周年を記念し、また工学部校友会設立50周年の記念として、新たな編曲を加えた「工学部学部歌」をCD化しました。これは、土木工学科元教授 山本将雄先生が作詞され、福島県出身の作曲家、故・古関裕而先生が作曲されたもので、昭和44年コロニアピア芸能(株)専属歌手 三鷹淳氏が歌って録音された後テープを紛失し、発表する機会のないまま、楽譜だけ工学部の図書館校史資料室に保管されていました。40年余りの月日を経て再度録音され甦った工学部学部歌は、卒業式や母校を訪ねる会などで紹介されました。今後広く工学部生に歌い継がれていくことを願っています。

なお、現存する故・古関裕而先生直筆の譜面など、ゆかりの品は30周年記念館に展示されています。



U Dものづくりフェアで最優秀賞受賞

11月12日(金)・13日(土)にピックパレットふくしまで行われた郡山商工会議所主催「こおりやまユニアーサルデザインものづくりフェア2010」に出演した建築学科の浦部智義准教授の建築計画研究室が、デザイン賞の最優秀賞である郡山市長賞を受賞しました。建築計画・設計・まちづくり等に関する活動内容や口ハスの3号の模型とパネルを展示。その技術力・使いやすさ・完成度などが評価されました。「研究の励みになります」と学生たちも喜んでいました。



環 境美化運動

学術文化サークル連合会、体育会、北桜祭実行委員会の3団体主催による環境美化運動内清掃を、11月22日(月)から26日(金)の昼休みに実施しました。学内清掃を行うことにより、学生の環境美化に対する意識向上を目的としており、今後も定期的に活動を実施していきます。



サークル イベント情報

音楽研究会

クリスマスコンサート
日時 12月18日(土)・19日(日)
開場 16:00／ 開演 16:30
場所 FREE WAY JAM

吹奏楽部

第37回定期演奏会

日時 12月26日(日)
開場 13:30／ 開演 14:00
場所 郡山市民文化センター

モダンジャズ研究会

JAZZ RECITAL

日時 12月12日(日)
開場 12:00／ 開演 12:30
場所 50周年記念館(ハットNE)3階 6231教室

未来へ語り継ぎたいものがある

工学部広報

2010 No.230

平成22年12月6日 ご意見・ご要望がございましたら、お気軽にお寄せ下さい。

編集:日本大学工学部広報委員会

発行:日本大学工学部 TEL(024) 956-8618

〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原1

<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/> E-mail koho@ao.ce.nihon-u.ac.jp

学 会賞・奨励賞受賞

7月30日(金)・31日(土)

に開催された第32回日本光医学・生物学会において、生命応用化学科ナノバイオ研究室の齋藤烈教授(写真左)が学会賞を、齋藤義雄准教授(写真右)が奨励賞を受賞しました。



秋 の徳定川清掃

10月23日(土)秋晴れの中、水環境について学ぶ土木工学科の4つの研究室が中心となって徳定川の清掃を行いました。毎年春と秋に行われており、卒業生も参加する恒例行事で、11年目を迎めました。



学内だけでなく、大学から5キロほど上流部までの清掃をやり遂げた学生たちは達成感でとてもいきいきとした表情を見せていました。

体 育会継承式

11月6日(土)、平成22

年度日本大学工学部体育会第43代常任役員会継承式及び披露宴が行われました。各団体の新旧の代表者等が集まり、体育会第43代委員長と常任役員24名が任命されました。



歳 末助け合い運動

今年で41回目となる体育会歳末助け合い運動が、11月27日(土)から12月5日(日)の期間に行われました。期間中は体育会に所属する学生延べ550名が参加し、JR郡山駅周辺で街頭募金活動を行い、総額を募ったほか、学内8ヶ所で善意を募りました。集まった募金は、福島県共同募金会郡山市支会に寄付します。



人 事

役職任命	貢献【新入】	昇格
庶務課課長補佐	学生課課長補佐	教務課
主事 小林正志 (平成22年10月1日付)	参事補 添田喜彦 (平成22年10月29日付) <small>(異動元:本部研究推進室研究推進課)</small>	参事補 枝淵吉幸 (平成22年10月1日付)
昇格	管財課	教務課
庶務課	主事 福内由美 (平成22年10月1日付)	主事 林修 (平成22年10月1日付)
昇格	図書館事務課	研究事務課
教務課	主事補 菅井正一 (平成22年10月1日付)	書記 渡邊修 (平成22年10月1日付)
研究事務課	教務課	書記補 澤井直樹 (平成22年10月1日付)



この印刷は環境にやさしい・持続性
大豆油インクで印刷しています。
この印刷物は
再生紙を使用しております。